

授業科目 保健医療福祉連携学 II(福祉現場)

【担当教員名】 西川 薫	対象学年	3	対象学科	理学・作業・言語・義肢・臨床・健栄・スポ・社会・看護・情報
	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	1	時間数	15

【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：GI0】
福祉の現場において、対象者の生活の質を考慮した支援を提供するためには多職種間連携が必要不可欠である。本授業では福祉現場において行われる様々な連携のあり方について、多職種の専門性をふまえながらその実態と必要性について理解する。
(1) 福祉現場における各専門職の役割について知る
(2) 福祉現場における連携の必要性を理解する
(3) 福祉現場で行われている連携の実際を知る。

【学習目標・行動目標：SBO】
1. 福祉における各専門職の役割について列挙することができる。
2. 福祉現場における連携の必要性について説明することができる。
3. 福祉現場における多職種の連携の実際について説明することができる。
4. グループワークを通して、それぞれが学んでいる専門分野の立場から意見を述べるすることができる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	【オリエンテーション】福祉現場における連携の紹介	1, 2, 3.	西川 薫 (看護学科)
2	【講義】福祉現場における事例 (その1)	1, 2, 3	(外部講師)
3	【グループワーク】提示事例の検討	1, 2, 3, 4	担当教員 および ファシリテータ教員
4	【講義】福祉現場における事例 (その2)	1, 2, 3	(外部講師)
5	【グループワーク】提示事例の検討	1, 2, 3, 4	担当教員 および ファシリテータ教員
6	【講義】福祉現場における事例 (その3)	1, 2, 3	(外部講師)
7	【グループワーク】提示事例の検討	1, 2, 3, 4	担当教員 および ファシリテータ教員
8	【リフレクション】授業のまとめ・グループのふりかえり	1, 2, 3, 4	西川 薫 (看護学科)、他

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書	IPWを学ぶ：利用者中心の保健医療福祉連携	埼玉県立大学	中央法規出版	2009・2,940円
その他の資料	その都度提示			

【評価方法】 1. 記録 (各授業でリフレクションシート記入・提出) : 40%程度 2. グループワークへ取り組み : 60%程度	【履修上の留意点】 授業は、講義とグループワークを交互に実施する。 グループワークは、福祉現場における事例をもとに連携を中心に話しあい、支援策を立案 (支援の方向性) し発表をおこなう。1グループ (7~8名程度) とし、約20グループを形成する。3回のグループワークにおいて各グループのメンバーは変更しない。
--	---